

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 61-291007

(43)Date of publication of application : 20.12.1986

(51)Int.CI.

B01D 13/01

(21)Application number : 60-131204

(71)Applicant : TOYOBO CO LTD

(22)Date of filing : 17.06.1985

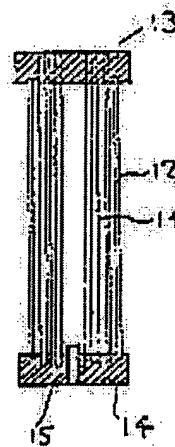
(72)Inventor : MATSUNAGA KAZUHIKO
SEKINO MASAAKI

(54) HOLLOW YARN TYPE SEPARATION MEMBRANE ELEMENT

(57)Abstract:

PURPOSE: To efficiently remove the suspended substance adhered to the surface of a membrane, by protecting the outermost periphery of a hollow yarn bundle by a reticulated or porous protector of which the void ratio is a predetermined value or more and providing a through-hole or nozzle, of which the diameter is a specific value or more, to the adhesion part of the end part of the hollow yarn bundle.

CONSTITUTION: Both end parts of a hollow yarn bundle 11 is adhered and fixed by an adhesive and both ends of the hollow yarn bundle are opened. The outermost periphery of the hollow yarn bundle 11 is protected by a reticulated or porous protector made of polyethylene of which the void ratio is 5% or more and a nozzle 15 is provided to the adhesion part of one end of the hollow yarn bundle 11 so as to pierce therethrough. A liquid to be treated is supplied to a filter wherein this hollow yarn type separation element is received in an outer cylinder and each hollow yarn is pressurized from the outer surface side thereof to perform ultrafiltration or precise filtration obtaining permeated water from the inner surface side of the hollow yarn. When the suspended substance adhered to the surface of the membrane is removed, air from an air blow nozzle is penetrated in the separation membrane element from the nozzle 15 of the adhesion part 14 and the suspended substance on the surface of the hollow yarn is scraped off by bubble action. Thereafter, treated water is discharged out of the system along with the suspended substance.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

① 日本国特許庁 (JP) ② 特許出願公開
 ③ 公開特許公報 (A) 昭61-291007

④ Int.Cl.
 B 01 D 13/01

識別記号 庁内整理番号
 8014-4D

⑤公開 昭和61年(1986)12月20日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全5頁)

⑥発明の名称 中空糸型分離膜素子

⑦特願 昭60-131204
 ⑧出願 昭60(1985)6月17日

⑨発明者 松永数彦 大津市堅田2丁目1番C-203号

⑩発明者 関野政昭 大津市日吉台4の16の2

⑪出願人 東洋紡績株式会社 大阪市北区堂島浜2丁目2番8号

明細書

1. 発明の名称

中空糸型分離膜素子

2. 特許請求の範囲

中空糸型分離膜本を内蔵し、中空糸の外周側から液体を加圧して該分離を行ない中空糸の内面側に透過水を得る膜外通風用または精製膜用の中空糸分離膜素子であつて、その中空糸束の両端部を接着固定し中空糸束の少なくとも一端を閉口させたものであり、かつ該中空糸束の最外周を閉口率が5%以上の網状または多孔体状の保護体で保護したものであり、しかも該中空糸型分離膜素子の少なくとも一端樹の後着部に、直径1mm以上の接着部を残す穴またはノズルを少なくとも1個有することを特徴とする中空糸型分離膜素子。

て、分離を行なう装置であつて、旗面に付着した懸濁物質を施設操作をすることにより装置外に排出させるのに適した形状を有する中空糸型分離膜素子に関するものである。

(従来の技術)

中空糸型膜分離膜を用いて被処理水中の金属酸化物、懸濁物質等を除去しようとする場合中空糸型分離膜を長期間使用するためにも、また金属酸化物、懸濁物質等の除去効率を良い状態に保持するためにも中空糸型分離膜を維持する操作が重要である。

従来、水中の懸濁物質、金属酸化物を除去する一般的な方法としては圧力プレコート型フィルター、圧縮型フィルター等が使用されてきた。しかしこれらの技術には通過装置の密閉性および排出される膜障壁が多い等の問題点が有った。

また最近では多孔の開孔物を2次的に発生させ

特開昭61-281007(2)

効率する場合には、膜外側過膜が付着したり拭く、また目詰まりした時の再生効率が悪いという問題点があつた。

(発明が解決しようとする問題点)

前記の懸濁物質等の除去を中空糸型分離膜により行なつた後の該中空糸型分離膜を再生させる方法の一例として、空気を中空糸型膜分離装置に吹き込む方法を行なつた場合でも、従来の中空糸型分離膜装置の形状では、中空糸束を空気により強制させることにより中空糸を折つてしまふようなトラブルを起こしてしまつたり、また、中空糸表面に付着した懸濁物質を除去して再生させる時の再生効率もあまり良いものではなかつた。

そこで本発明者らは数々検討した結果、中空糸分離膜を再生させる場合に、中空糸を折つてしまふようなトラブルを起こすことなく、空気等の流体を効率良く中空糸型膜分離装置に供給すると同時に中空糸膜表面に付着した、懸濁物質等を効率よく系外にまよにした中空糸型膜分離装置の主要構成要素である中空糸型膜分離素子を見い出す

に至つた。

(問題を解決するための手段)

即ち、本発明は中空糸型分離膜束を内蔵し中空糸の外表面から液体を加圧して膜分離を行ない中空糸の内部側に過濾水を得る膜外側過濾または精密過濾の中空糸型分離膜素子であつて、その中空糸束の両端部を接着部固定し中空糸束の少なくとも一端を開口させたものであり、かつ該中空糸束の最外周を開口率が5%以上の網状または多孔体状の保護体で保護したものであり、しかも該中空糸型分離膜素子の少なくとも一端側の接着部に前後1mm以上の接着部を貫通する穴またはノズルを少なくとも1個有することを特徴とする中空糸型分離膜素子を提供するものである。

本発明のかかる中空糸型分離膜素子を図面にて説明する。

第1図及び第2図は本発明素子の一例を示すものである。又第3図は該分離膜素子を外筒内に収納した排過器本体を示すものである。

第1図において本発明の中空糸型分離膜素子は

3

中空糸束11の両端部が接着剤で接着固定され中空糸束11の両端が開口している。そして中空糸束11の最外周を開口率が5%以上の網状又は多孔体状の保護体12で保護されており、中空糸束11の一端の接着部14に接着部14を貫通するノズル15を有している。又第2図の分離膜素子においては孔16を形成したバルブ16が導入されている。

又第3図は第1図及び第2図の分離膜素子2を外筒3内に収納した状態を示すものである。排過器本体1は背板4、中空糸型分離膜素子固定金具5、O-リング6、被処理液入口7、過濾水入口8、エア-吹込みノズル9、エア-抜きノズル10、排水口17より構成され、分離膜素子2は背板4にO-リング6を介して取りつけられる。

次にかかる排過器1の使用方法について述べる。被処理液を入口7より供給し中空糸の外表面

4

水の過濾をやめ（該過器本体1の内部に被処理水が満水の状態になつてゐる）、エア-吹込みノズル9から空気を噴出させる。空気は分離膜素子の接着部に設けたノズルよりその内部に侵入しバブル作用により中空糸表面に付着している懸濁物質をかきおとす。所定時間エア-吹込みを行なつた後エア-吹込みを止め排水口17より該過器本体の被処理水を排出させる。この排水にともない懸濁物質も系外に出される。完全に排水が完了すると次いで前記した様に可逆膜外側過濾を続ける。

本発明で言う中空糸型分離膜束は、セルローズエスセル（セルロースジアセテート、セルローズトリアセテート、硝酸セルローズ等）、ポリアミド、ポリスルホン、ポリアクリルニトリル、ポリイミド、ポリエスチル、ポリビニルアルコール、メタクリル酸エステル、ポリブロビレン、ポリオレフィン等で作られた、内径5.0mm乃至10.00

特開昭61-291007(3)

ン等のポリオレフィン、ポリエスチル等の合成樹脂またはガラス繊維ポリエスチル織維等の繊維をポリエスチルまたはエポキシ等でコーティングした強化プラスチックまたはセラミック、ステンレス等の金属でできた網目状または多孔体形状をしたもので、開口率が5%以上であり平均開口径が10μ以上ものである。開口率が5%未満であると中空糸膜から脱離させた懸濁物質を糸外に取り出す時に多孔体自身が目詰まりを起こしてしまい結果は良くなかった。

又接着部の穴に挿入するノズルはポリエチレン、ポリプロピレン等のポリオレフィン、ポリエスチル等の合成樹脂またはガラス繊維ポリエスチル織維等の繊維をポリエスチルまたはエポキシ等でコーティングした強化プラスチック、またはステンレス等の金属でできた丸棒、角棒の棒状または丸パイプ、角パイプ等のパイプ状の形状であり、パイプ状の時には、パイプの側面に1個または2個以上の穴をあけた形状のものでも良い。又接着部にはノズルを挿入することは必ずしも必要

なく異なる穴を利用してすることもできる。

また、中空糸束の最外径が40mmを超える、かつ中空糸束の全長が50mを超えるような、大きな中空糸型分離膜粒子に関しては、中空糸型分離膜粒子の中空糸束の中心部に中空糸束と平行に杭鋼を設置し、かつ該粒子の両端の接着部をつなげるのに十分な長さの合成樹脂等の芯管を取り付けることにより、中空糸束が受けける力を芯管で吸収することができる、中空糸膜が折れたり中空糸束に傷をつける等のトラブルを更に少なくさせることもできる。ただこの場合エア吹込みによるバブル作用を弱めするものであつてはならない。

(発明の効果)

本発明は、中空糸型分離膜の表面に付着した懸濁物質等を除去するに附し、中空糸を折ってしまうようなトラブルを起こすことなく、空気等の液体を効率良く中空糸型膜分離装置に供給すると同時に中空糸膜表面に付着した懸濁物質等を効率良く糸外に除去できるようにしたものである。

本発明は前記の理由から、下水再利用等懸濁物

7

質を多く含む水を膜分離処理するとき、また原子力発電の冷却水中に発生する腐食生成物および放射性廃棄物等を除去する目的で膜分離処理を行なうとき、更には火力発電のポイラー水中に含まれる金属酸化物等を除去する目的で膜分離処理を行なうとき等に非常に有効な発明である。また、本発明は食品工業ににおける膜分離処理にも有効である。

(実施例)

以下本発明の実施例を記載するが、本発明は、かかる実施例によって何等限定をうけるものではない。

実施例 1

セルロースアセテートからなり、内径300μm外径450μmの中空糸を3000本束ねた中空糸束の外周をポリエチレンからできた開口率が60%の網状の保護体で包み、中空糸束および保護体の両端部をエポキシ接着剤で接着した。この時中空糸束の中心部に外径12mmのアク

8

込んで第1図の様な分離膜粒子を作製した。なお中空糸束の長さは45mであった。この中空糸型分離膜粒子を第3図に示す外筒の中に収納して、導通器を運転した。導通対象液として酸化第二鉄を約1.0ppm含む液を用いて、通過および逆洗を行なう運転をした。のべ運転日数50日、毎べ逆洗回数50回になつたが導通操作上全く問題なく運転することができた。また逆洗による中空糸の折れ及び損傷も無く、洗浄による膜の透過性が回復率も100%に近かつた。

実施例 2

セルロースアセテートからなり、内径275μm、外径430μmの中空糸を10000本束ねた中空糸束の外周をポリエチレンからできた開口率が70%の網状の保護体で包み、中空糸束および保護体の両端部をエポキシ接着剤で接着した。この時中空糸束の中心部に外径12mmのアク

特許明61-291007(4)

 13…接合部
 15…ノズル
 17…排水口

 14…接合部
 16…パイプにあけた穴

て接着固定させアクリル樹脂のパイプ部の側面に底強2mmの穴を12個あけた。この分離膜粒子の全長は80mmであり、外径は30mmであった。この中空糸型分離膜粒子の構造形態は大略第2圖の様なものであつた。この中空糸型分離膜粒子を第3圖に示す滤過器を用いて、下部より空気を吹かす逆洗操作を行なつた。各20分ずつ800回の逆洗操作を繰り返し行なつたが、運転後の分解検査では中空糸には折れ、崩壊等が全く認めなかつた。

4. 圖面の簡単な説明

第3圖に本発明に適用される滤過装置の断面図の一例を示す。第1圖及び第2圖には本発明に係る中空糸型分離膜粒子の一例を示す。

1…滤過器本体	2…中空糸型分離膜粒子
3…外筒	4…蓋
5…中空糸型分離膜粒子固定金具	
6…Oリング	7…被処理液投入口
8…通過水出口	9…エア一吹込みノズル
10…エア一吹出ノズル	
11…中空糸束	12…保弾体

図1

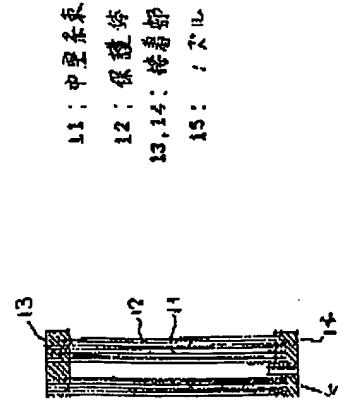
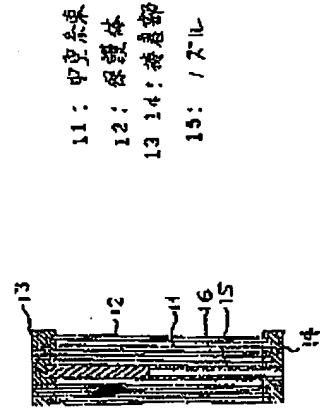
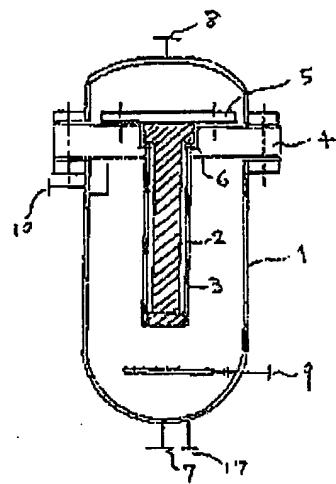


図2



特許昭61-291007(5)

第8図



2: 中空糸型分離膜素子

7: 被処理液入口

8: 透通水出口

9: エア-吹き込みバル